

文字関数 運用ガイド

【CADWe'll Tfas 15 編】



株式会社ダイテック

2026 年 4 月

<1 版>

はじめに

この度は、「CADWe'll Tfas 15（以下「CADWe'll Tfas）」をご採用いただき誠にありがとうございます。

本書「文字関数運用ガイド【CADWe'll Tfas 15 編】」は、「CADWe'll Tfas」をお使いいただく方のために、「文字関数」の使用方法や運用について説明したものです。

本書に書かれている事項をご自分で操作しながら、「CADWe'll Tfas」の動作・結果・機能を確認いただき、「CADWe'll Tfas」を幅広くご活用ください。本書のご説明に合わせてサンプル図面もご用意しております。

設備設計・施工業務に最適な「CADWe'll Tfas」を、是非ご使用のパソコンの常用ソフトとして末永くご活用ください。

株式会社ダイテック

- 「CADWe'll Tfas」は株式会社ダイテックの商標であり、「CADWe'll Tfas」にかかる著作権、その他の権利はすべて株式会社ダイテックに帰属します。
- Microsoft, Windows, Windows 11, Windows 10, および DirectX は、米国 Microsoft Corporation の米国、日本国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他記載されている全ての社名、製品名はそれぞれの会社の登録商標または商標です。
- 本文中に™、®、©は明記していません。
- 本書の記載内容は、予告なく変更することがあります。

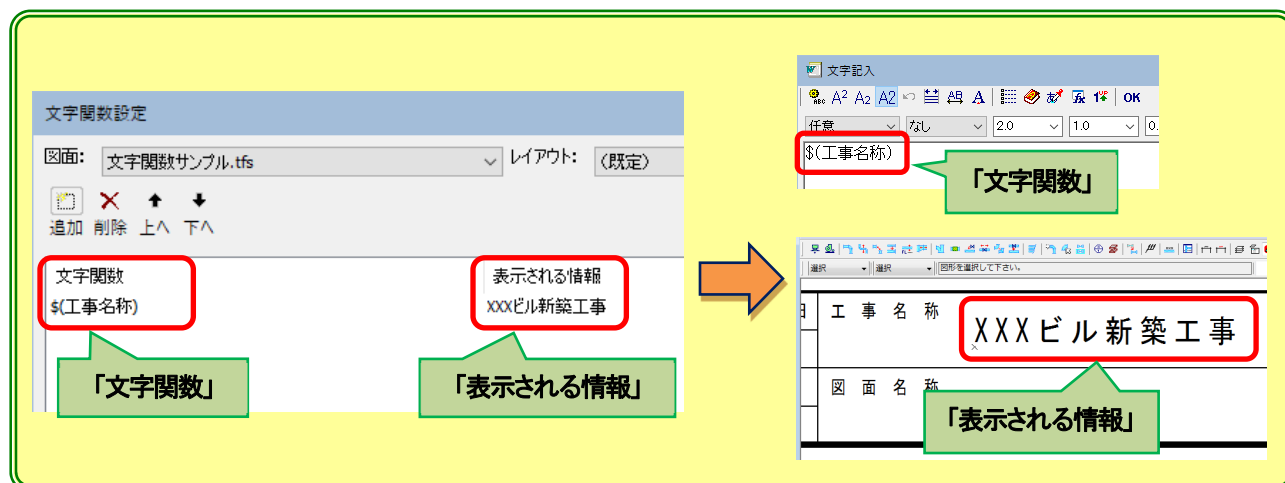
目次

1. 文字関数の概要	1
1-1 「文字関数」とは	1
1-2 「文字関数一括処理」ツール	1
2. 文字関数運用の流れ	2
2-1 「文字関数」を追加する	3
2-2 「文字関数」を使用する	5
2-3 「文字関数一括処理」ツールで CSV 出力	7
コマンドラインによる文字一括処理ツール（一覧出力）の実行方法	8
2-4 「Excel」で CSV データを修正	9
2-5 「文字関数一括処理」ツールで一括変更	10
コマンドラインによる文字一括処理ツール（一括変更）の実行方法	11
3. テンプレートによる文字関数の運用	12
3-1 運用の概要	12
3-2 運用の手順	12

1. 文字関数の概要

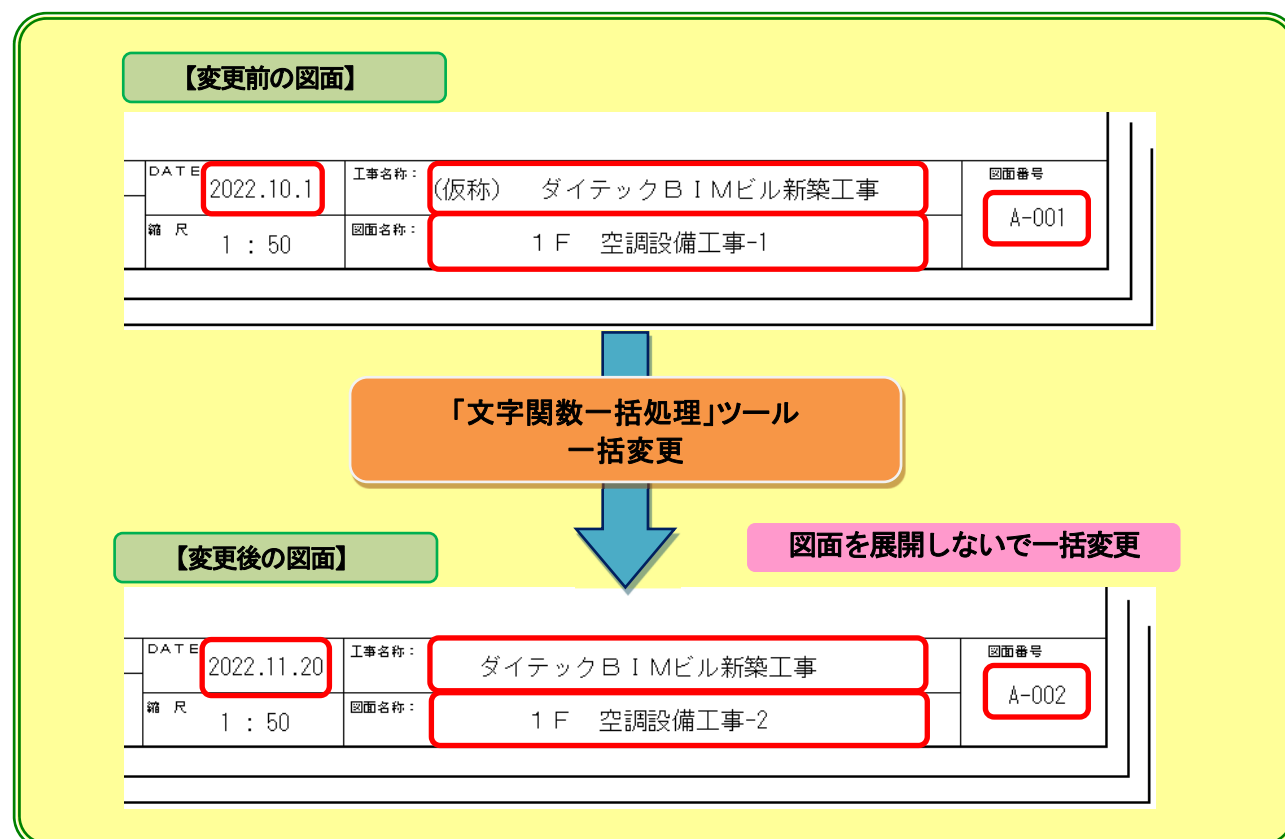
1-1 「文字関数」とは

文字の入力時に「文字関数」を使用することで、「文字関数」に関連付けられた文字を表示する機能です。



1-2 「文字関数一括処理」ツール

「文字関数一括処理」ツールを使用すると、図面を展開することなく、複数の図面の文字を一括で変更することができます。



2. 文字関数運用の流れ

①「文字関数」の追加



②「文字関数」を使用



③「文字関数一括処理」ツールで CSV 出力



④「Excel」で CSV データを修正




⑤「文字関数一括処理」ツールで一括変更

※CSV データの修正時に Microsoft Excel を使用しています。

2-1 「文字関数」を追加する

ここでは、サンプル図面を使用して「文字関数」を追加する方法を説明します。

手順(1) サンプル図面を開く

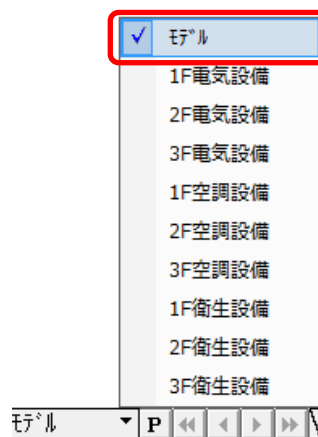
- ① ツールバーの  [開く]をクリックします。
- ② サンプル図面「文字関数サンプル.tfs」を選択し、<開く>ボタンをクリックします。


※サンプル図面はダウンロードしたファイルに含まれています。

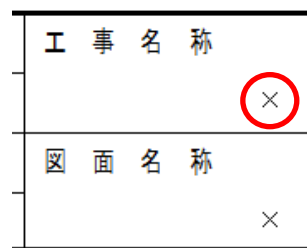
手順(2) 「文字関数」を追加


- ① 工事名称等を作図します。
左下の表示が「モデル」に設定されていることを確認します。
「モデル」でない場合はレイアウトをクリックして「モデル」に切り替えます。

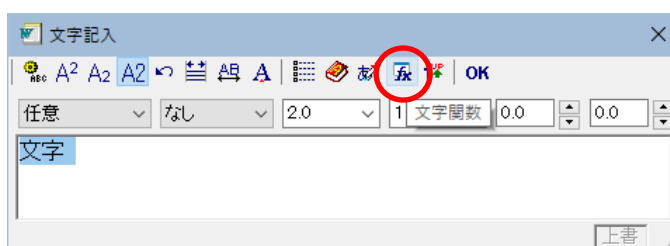
工事名称はすべての図面で同一の場合が多いため、モデルに「文字関数」を使用して作図します。




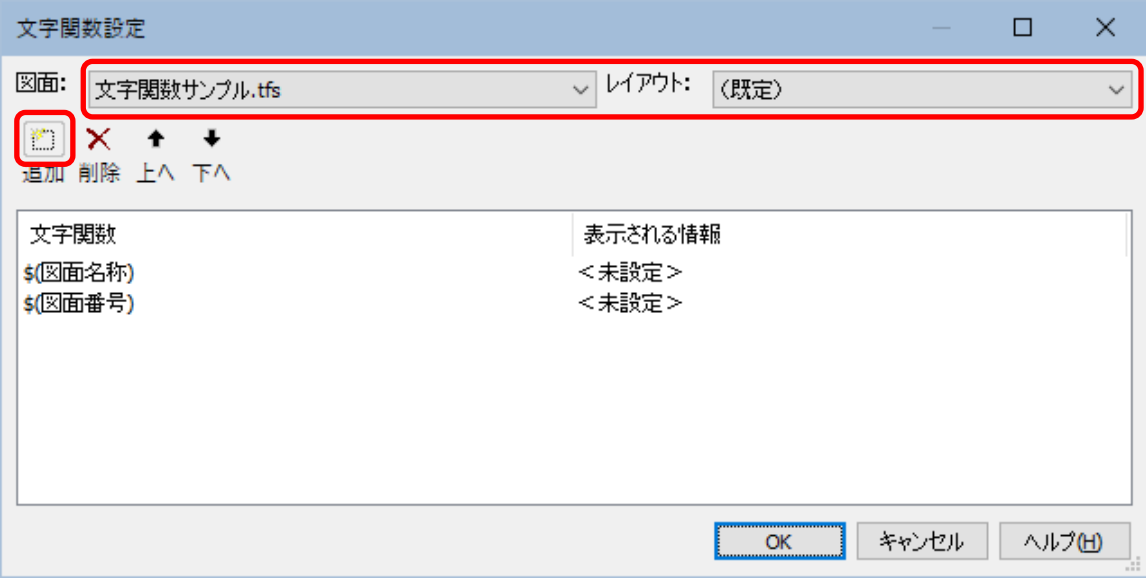
- ② ツールバーの  [文字・文字記入]をクリックします。
- ③ 文字の基準点を入力します。
今回は工事名称欄の補助点をクリックします。



- ④ [文字記入]ダイアログが表示されます。
 [文字関数]ボタンをクリックします。



- ⑤ **【文字関数設定】**ダイアログが表示されますので、文字関数を設定する図面、レイアウトを選択し、 **【追加】**ボタンをクリックします。



文字関数設定

図面: 文字関数サンプル.tfs レイアウト: (既定)

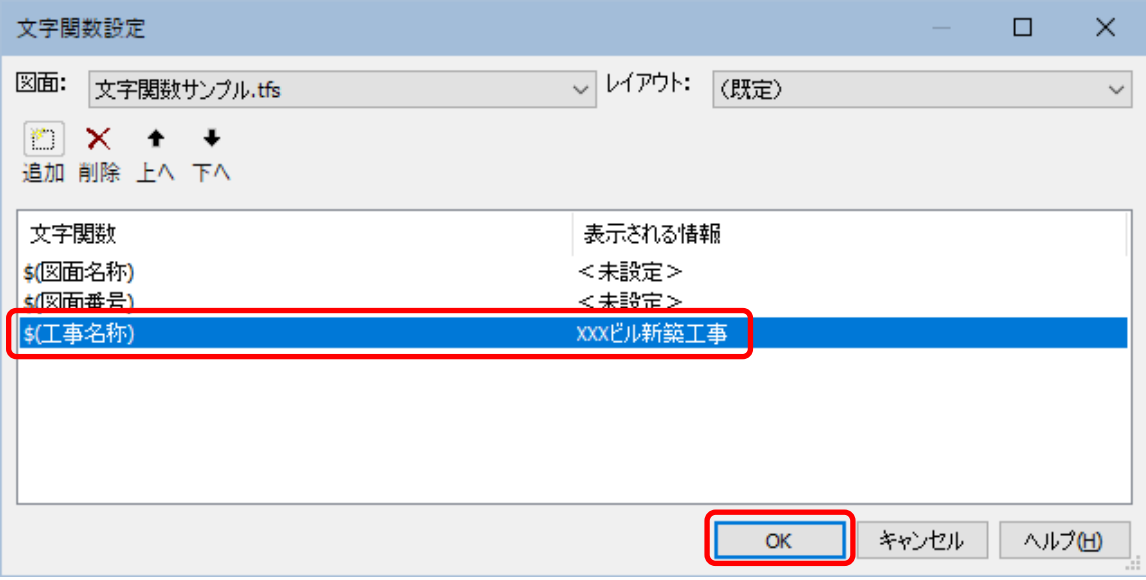
追加 削除 上へ 下へ

文字関数	表示される情報
\$(図面名称)	<未設定>
\$(図面番号)	<未設定>

OK キャンセル ヘルプ(H)

[レイアウト]の“(既定)”は文字関数をモデルに設定する場合に選択します。
工事名称は、“(既定)”に文字関数を追加します。

- ⑥ “**工事名称**”と入力すると「文字関数」に“\$(工事名称)”が追加されます。
「表示される情報」欄が“<未設定>”になっていますので、ダブルクリックして“**XXX ビル新築工事**”と入力し、<OK>ボタンをクリックします。



文字関数設定

図面: 文字関数サンプル.tfs レイアウト: (既定)

追加 削除 上へ 下へ

文字関数	表示される情報
\$(図面名称)	<未設定>
\$(図面番号)	<未設定>
\$(工事名称)	XXXビル新築工事

OK キャンセル ヘルプ(H)

「文字関数」の入力

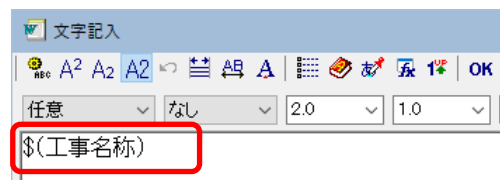
「文字関数」は“\$()”が自動的に付加されるので、括弧内の名称のみ入力します。

2-2 「文字関数」を使用する

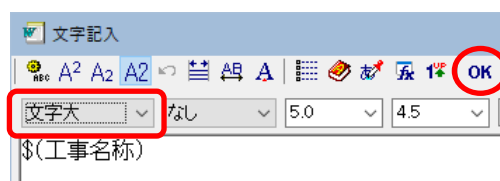
「文字関数」を使用して、文字作図します。

手順(1)

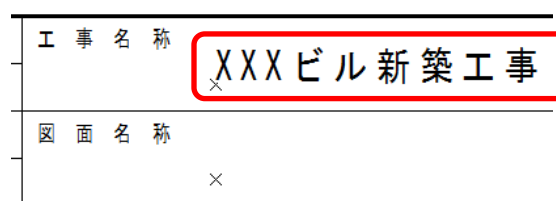
- ① [文字関数設定]ダイアログを閉じると、[文字記入]ダイアログの入力エリアに、選択していた「文字関数」“\$(工事名称)”が挿入されます。



- ② 「文字パターン」を「文字大」に設定して<OK>ボタンをクリックします。



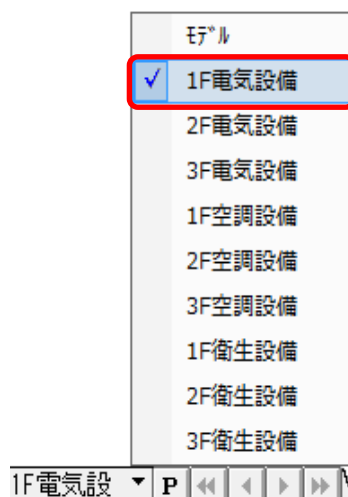
- ③ 「文字関数」“\$(工事名称)”に設定した文字列が作図されます。





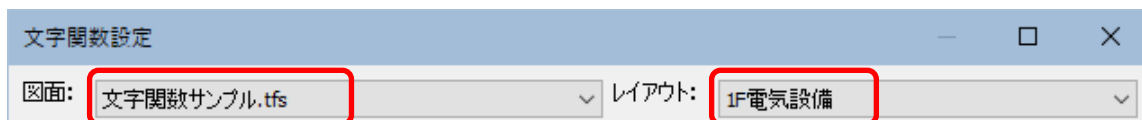
手順(2)

- ① 作成済のレイアウトに「図面名称」を作図します。レイアウトをクリックすると一覧が表示されますので「1F 電気設備」をクリックして切り替えます。

「図面名称」「図面番号」等は図面ごとに異なるため、各レイアウトに「文字関数」を使用して作図します。

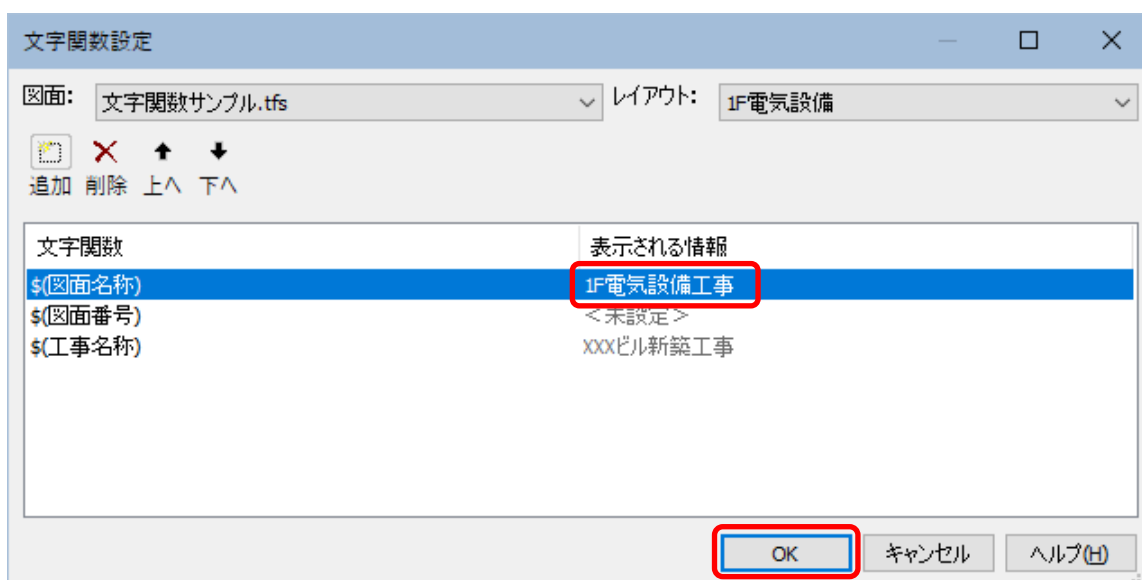


- ② ツールバーの  [文字・文字記入]をクリックします。
- ③ 文字の基準点(図面名称欄の補助点)をクリックします。
- ④ [文字記入]ダイアログが表示されますので  [文字関数]ボタンをクリックします。
- ⑤ [文字関数設定]ダイアログが表示されますので、文字関数を設定する図面、レイアウトを選択します。
ここでは、表示図面、カレントのレイアウトが設定されているのを確認します。

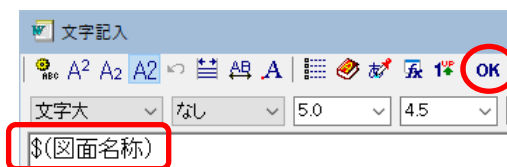


「図面名称」はレイアウト毎に「文字関数」を使用して作図します。

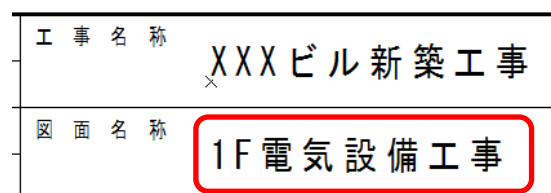
- ⑥ “\$(図面名称)”を選択し、「表示される情報」欄の“<未設定>”の位置でダブルクリックし、“1F 電気設備工事”と入力し、<OK>ボタンをクリックします。



- ⑦ [文字関数設定]ダイアログを閉じると、[文字記入]ダイアログの入力エリアに「文字関数」“\$(図面名称)”が挿入されますので、<OK>ボタンをクリックします。



- ⑧ 「文字関数」“\$(図面名称)”に設定した文字列が作図されます。



2-3 から 2-5 では、「文字関数一括処理」ツールを使用して、図面を展開することなく、複数の図面の文字を一括で変更する方法を説明します。

2-3 「文字関数一括処理」ツールで CSV 出力

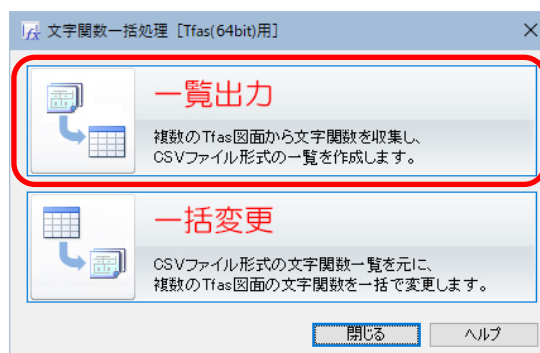
手順(1) 「文字関数一括処理」ツールを起動

- ① [スタート]ボタンをクリックし、[CADWe'll Tfas 15]-[Tfas 15 文字関数一括処理]^(※)をクリックします。

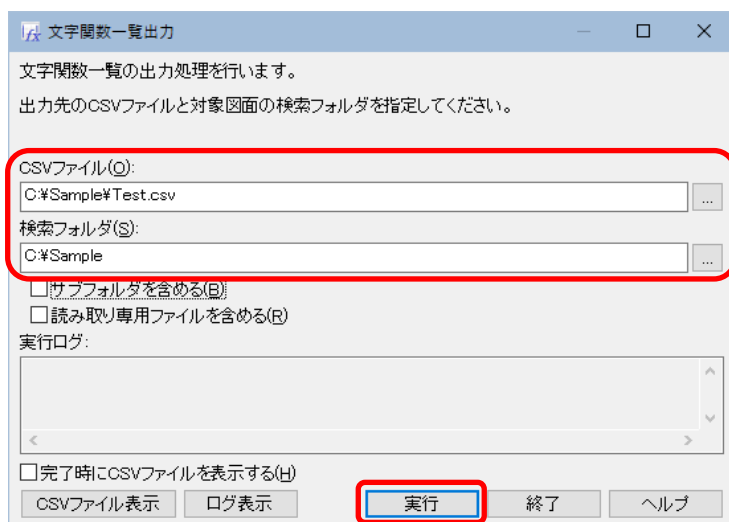
(※)アプリの起動方法は OS により異なりますので、詳細は Windows のヘルプを参照してください。

手順(2) 一覧を出力

- ① [文字関数一括処理]ダイアログが表示されますので[一覧出力]をクリックします。



- ② [文字関数一覧出力]ダイアログが表示されます。
[CSV ファイル][検索フォルダ]を設定します。
[CSV ファイル]:ここでは「Test.CSV」
[検索フォルダ]:ダウンロードしたサンプル図面のフォルダ



- ③ <実行>ボタンをクリックします。

- ④ <CSV ファイル表示>ボタンをクリックすると「Excel」が起動して一覧が表示されます。

【Excel での表示例】

	A	B	C	D	E
1	図面パス	レイアウト	\$(工事名称)	\$(図面番号)	\$(図面名称)
2	.¥1-図面枠サンプル一括変更用.tfs		(仮称) XXXビル新築工事	X-XXX	XXX設備工事
3	.¥2-図面枠サンプル一括変更用.tfs		(仮称) XXXビル新築工事	X-XXX	XXX設備工事
4	.¥3-図面枠サンプル一括変更用.tfs		(仮称) XXXビル新築工事	X-XXX	XXX設備工事
5	.¥4-図面枠サンプル一括変更用.tfs		(仮称) XXXビル新築工事	X-XXX	XXX設備工事
6	.¥5-図面枠サンプル一括変更用.tfs		(仮称) XXXビル新築工事	X-XXX	XXX設備工事
7	.¥図面枠サンプル.tfs				
8	.¥文字関数サンプル-完成.tfs		XXXビル新築工事		
9	.¥文字関数サンプル-完成.tfs	1F衛生設備		S-001	1F衛生設備工事
10	.¥文字関数サンプル-完成.tfs	1F空調設備		A-001	1F空調設備工事
11	.¥文字関数サンプル-完成.tfs	1F電気設備		E-001	1F電気設備工事

コマンドラインによる文字一括処理ツール(一覧出力)の実行方法

文字関数の一覧出力は、「文字一括処理ツール」(WFTTool.exe)の画面を表示することなくコマンドラインから実行することも可能です。実行方法は以下の通りです。

1) 起動

[スタート]ボタンを右クリックし、[ファイル名を指定して実行](※)を実行

(※)[ファイル名を指定して実行]は Windows の標準搭載機能です。OS により起動方法が異なりますので、詳細は Windows のヘルプを参照してください。

2) 式を入力して<OK>ボタンで実行。

【入力例】

"C:¥Program Files (x86)¥Daitec¥Tfas¥WFTTool.exe"/O/Cc:¥sample¥Test.CSV/Fc:¥sample¥/L

①	ツールの場所	文字一括処理ツール(WFTTool.exe)の場所を指定。 パス内にスペースがある場合は""(半角のダブルクォーテーション)で囲います。
②	/O	「一覧出力」の指定。
③	/C(パス)(ファイル名).csv	CSV ファイルの出力先を指定。 /C の後に CSV ファイルのパスと CSV ファイル名を指定します。 ※/C とパスの間にスペースは入れないでください。
④	/F(パス)	対象図面の検索フォルダを指定。 /F の後に検索フォルダのパスを指定します。 ※/F とパスの間にスペースは入れないでください。 ※/F(パス)の後に /S を入れると、サブフォルダまで含めることができます。(省略可) /R を入れると、読み取り専用ファイルを含めることができます。(省略可) 【入力例】 /Fc:¥sample¥ /S /R
⑤	/L	ログの出力を指定。(省略可) wftOutputList.log(ファイル名は固定)を CSV ファイルと同じ場所に出力します。

2-4 「Excel」で CSV データを修正

手順(1) CSV データを修正

- ① 今回変更するのは先頭から 5 図面のみなので、それ以外の行を削除します。

	A	B	C	D	E
1	図面パス	レイアウト	\$(工事名称)	\$(図面番号)	\$(図面名称)
2	.¥1-図面枠サンプル一括変更用.tfs		(仮称) XXXビル新築工事	X-XXX	XXX設備工事
3	.¥2-図面枠サンプル一括変更用.tfs		(仮称) XXXビル新築工事	X-XXX	XXX設備工事
4	.¥3-図面枠サンプル一括変更用.tfs		(仮称) XXXビル新築工事	X-XXX	XXX設備工事
5	.¥4-図面枠サンプル一括変更用.tfs		(仮称) XXXビル新築工事	X-XXX	XXX設備工事
6	.¥5-図面枠サンプル一括変更用.tfs		(仮称) XXXビル新築工事	X-XXX	XXX設備工事
7					
8					

- ② 以下の表示のように項目を修正します。

	A	B	C	D	E
1	図面パス	レイアウト	\$(工事名称)	\$(図面番号)	\$(図面名称)
2	.¥1-図面枠サンプル一括変更用.tfs		ABCビル新築工事	X-001	1F設備工事
3	.¥2-図面枠サンプル一括変更用.tfs		ABCビル新築工事	X-002	2F設備工事
4	.¥3-図面枠サンプル一括変更用.tfs		ABCビル新築工事	X-003	3F設備工事
5	.¥4-図面枠サンプル一括変更用.tfs		ABCビル新築工事	X-004	4F設備工事
6	.¥5-図面枠サンプル一括変更用.tfs		ABCビル新築工事	X-005	5F設備工事

- ③ データを CSV 形式で保存します。

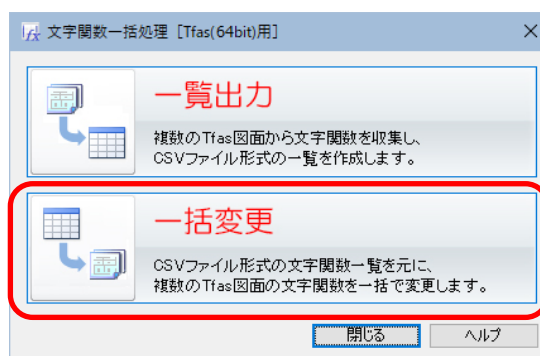
2-5 「文字関数一括処理」ツールで一括変更

手順(1) 「文字関数一括処理」ツールを起動

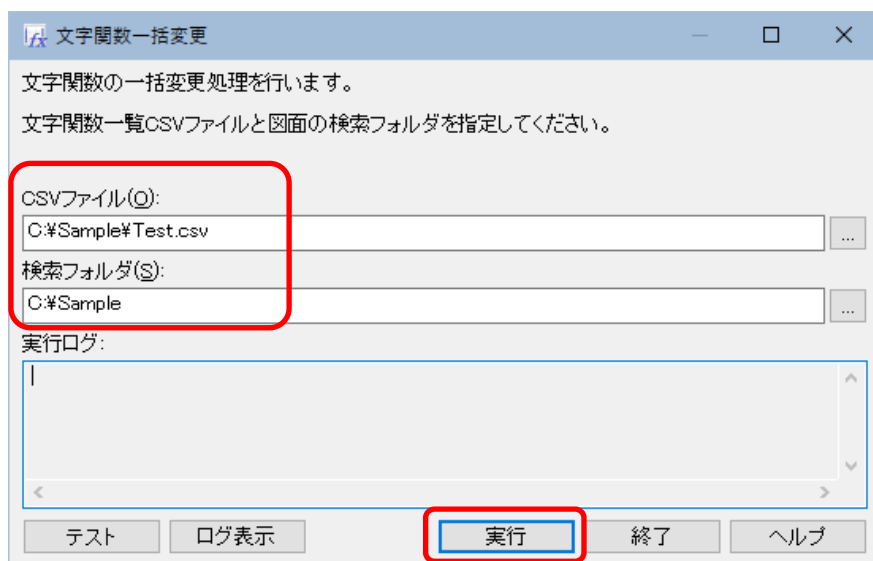
- ① 「文字関数一括処理」ツールが終了していたら再度起動します。

手順(2) 一括で変更

- ① 【文字関数一括処理】ダイアログが表示されますので【一括変更】をクリックします。



- ② 【文字関数一括変更】ダイアログが表示されますので以下のように【CSV ファイル】【検索フォルダ】設定し、<実行>ボタンをクリックすると、【実行ログ】が表示され処理が終了します。



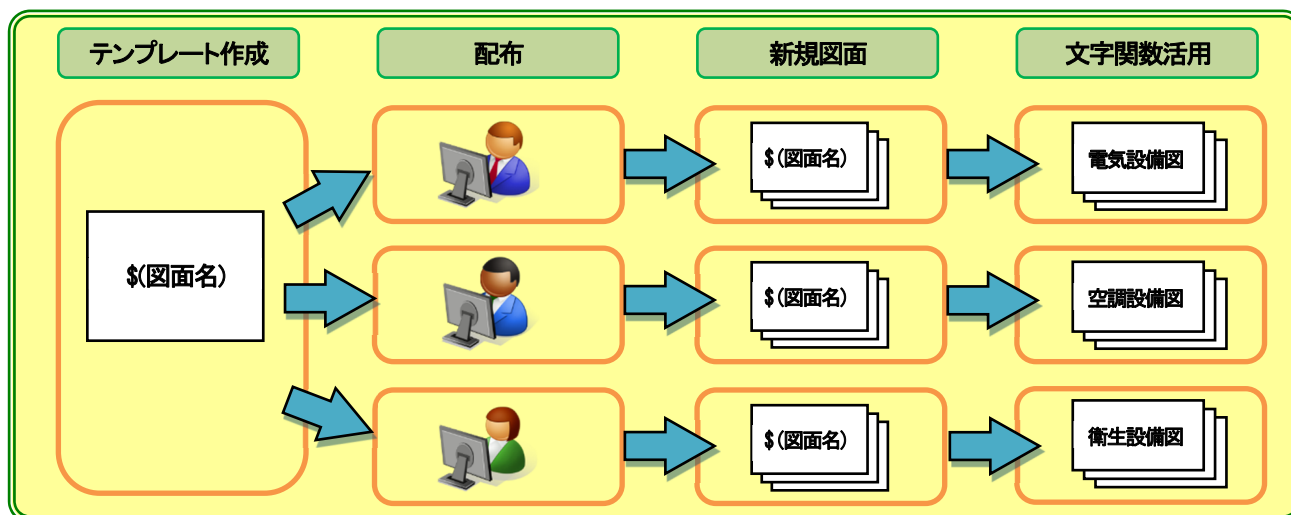
- ③ <終了>ボタンをクリックします。
- ④ サンプル図面「1-図面枠サンプル 一括変更用.tfs」を開いて、図面枠内の情報を確認します。

工 事 名 称	ABCビル新築工事	図 面 番 号
図 面 名 称	1F設備工事	X-001

3. テンプレートによる文字関数の運用

3-1 運用の概要


ここでは、テンプレート設定を使用して、「文字関数」を有効に活用する方法を説明します。自社や指定の図面枠を運用したり、物件ごとの設定に応用することができます。



3-2 運用の手順

手順(1) サンプル図面を開く

テンプレートとする図面を用意し、「文字関数」を追加します。ここでは、サンプル図面使用してテンプレートを作成します。

- ① ツールバーの  [開く]をクリックします。サンプル図面「図面枠サンプル.tfs」を選択し、<開く>ボタンをクリックします。

手順(2) テンプレートファイルを保存

- ① メニューバーの[ファイル]ー[テンプレートの保存]で保存します。

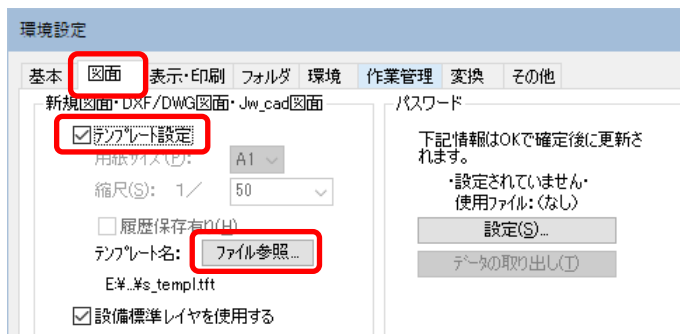
手順(3) テンプレートを設定

- ① メニューバーの[設定]ー[環境設定]をクリックします。

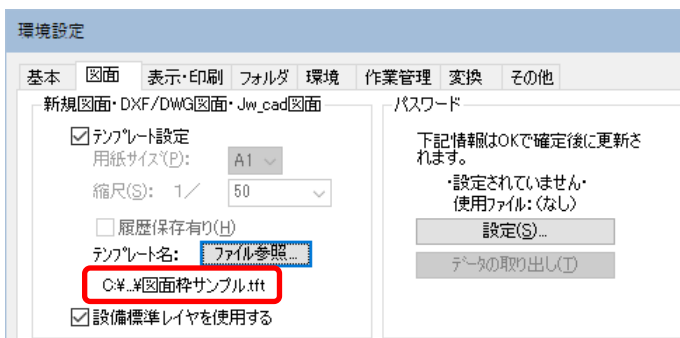
- ② [環境設定]ダイアログが表示されますので[図面]タブをクリックします。
[テンプレート設定]チェックボックスを「ON」に設定します。<ファイル参照>ボタンをクリックします。

※注意

ここでは、演習のため、テンプレートファイルを設定しますが、現在、設定しているテンプレートファイルがある場合、「フォルダ名」「ファイル名」を記録して元に戻せるようにして下さい。




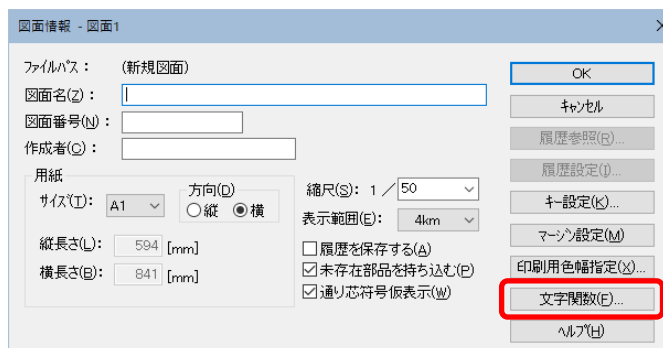
- ③ [テンプレートの選択]ダイアログが表示されますので、手順(2)で保存した[フォルダ]と[ファイル名]を設定します。
- ④ [テンプレート名]に新しいファイル名が設定されますので、<OK>ボタンをクリックします。



手順(4) 新規図面で確認

テンプレートファイルが設定されましたので新規図面を開いて確認します。

- ① ツールバーの  [新規ファイル]をクリックします。
設定したテンプレートファイルを基に新規図面が開かれます。
- ② メニューバーの[ファイル]ー[用紙サイズ・縮尺設定]をクリックします。
[図面情報]ダイアログが表示されますので<文字関数>ボタンをクリックします。



- ③ 【文字関数】ダイアログが表示されます。
「文字関数」が設定されていることを確認できます。

